

卒業式 式辞

本格的な春の訪れが、そこかしこで感じられる季節となつてまいりました。本日、ここに令和五年度卒業式を挙げていくことは、この上ない喜びであります。

本学での学びを終え、本日ここに、晴れて卒業を迎えられた皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、お祝い申し上げます。

また、本日ご臨席を賜りましたご家族の皆さま、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。

お子様のご卒業を共に祝えることに感謝申し上げます。

ただいま、大学院五人、大学三七三人、短期大学部一一一人、計四八九人の修了者・卒業生に「卒業証書・学位記」を授与いたしました。この「卒業証書・学位記」は、皆さんがそれぞれの研究科・学部・学科で勉学に励み、本学での学びを終えられた証です。

そして本日は、多くの人に支えられ、見守られて、学生生活を送り、これから、社会人としての歩みが始まるという門出の日でもあります。

さて皆さんは、この兵庫大学・兵庫大学短期大学部で何を学んでこられたでしょうか。将来の夢に向かって、自身の興味・関心に沿った専門分野に関する知識や技術、それを実践するための行動力など、学問としてだけでなく専門職業人として活躍するために必要な力を身につけてこられたことと思います。さらには、学びの中であって、課題意識を持ち、それを深く掘り下げ、自分なりの考えや感性を磨くこと、夢の実現に向けて自分の可能性を最大限に信じ、ひたむきに取り組んできたこと、励まし合いながら切磋琢磨し共に成長する仲間との出会いなど、今だからこそ獲得できる経験を沢山されてきたことと思います。

これまでの学びはここで完結する訳ではありません。学びや経験で得たことは、活用することで初めて本当の価値を発揮します。そして、人生を歩まれる中で、常に学んだことを活かし、さらに深め、更新し続けることが必要です。

皆さんの貴重な学生生活の期間においても、世界は目まぐるしく変化し続けてきました。大規模自然災害を挙げると、ハワイ・マウイ島での山火事、トルコ・シリアでの大地震、そして今年一月一日に起きた能登半島地震は記憶に新しいと思います。また、政治資金問題、世界的企業の合併や統合、不正問題、さらにはウクライナ戦争やガザ侵攻など、複雑で重大な課題が山積する時代を私たちは迎えています。もちろん、悪いことばかりではありません。良いニュースもあります。

ここで大切なのは、良いこと、悪いことも含め、これまで想定してこなかったような未曾有の事象に対し、正しく理解する力が必要であるということであり、そして、皆で知恵を出し合って、世界を良い方向へと導いていくことではないでしょうか。

小さな力かもしれませんが、皆さん個々の働きかけは、その一助となるはずですし、本学での学びが、きっと役に立つと思います。

社会的影響によって引き起こされる大きな出来事に限らず、皆さんのこれからの長い人生の中でも様々な出来事があることでしょう。そのような時に、皆さんは、自分のことだけでなく、少し周囲を見渡してみる、そして、その中でこれまで培ってきた知識や経験を踏まえ、最善の選択をしていかなければなりません。その時、その瞬間に、どのようなことを感じるのか、自身の感性を大切に、人として共感する心、人への慈しみの心、思いやりに溢れた心を大切にしながらも、人々と喜びを分かち合う、豊かな人生を歩んでいただきたい、そう願っています。

これから皆さんが歩む長い人生は、無限の可能性を秘めています。ただ、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁にぶつかることもあるでしょう。

そのような時には、本学での学びや経験を基礎としながら、さらに学び、柔軟な思考を巡らせ、乗り越えていただきたいと思います。

ただ、それでもなお、壁を乗り越えれそうにない時は、どうか私たちを訪ねてください。もし皆さんが、これからの人生の中で孤独に苛まれるようなことがあったとしても、決して一人ではないことを思い出してください。

私たちは常にあなた達と共にあります。

それでは、卒業生の皆さんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、令和五年度卒業式の式辞とします。

令和六年三月二十三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

学長 河野 真